



24時間以内に女性のおしっこを
飲まないと死んでしまう男

第一章 主人公の秘密

俺の名前は石場拓郎、アラサーのサラリーマンだ。

部長「もっとちゃんとやってくれよ。」

石場「すみません・・・。」

毎日毎日ガミガミと上司に怒鳴られる。そんな日々に嫌気がさしていた。

そんな俺の日々のストレスを解消する方法、それは夜な夜な一人でやる「とある行為」だ。

石場「今日はどのビデオで抜こうかな。」

俺はパソコンの秘蔵フォルダを開く。

シュイイイイイジョバババババババババババババババ

石場「おおお！やっぱり女性の放尿姿は興奮するううう！」

そう、俺は「おしっこ系 AV」を見ながら自慰行為をしてストレス発散しているのだ。もちろんこのことは俺しか知らない。そんな感じで変わらない日々を送っていた。そう、会社の健康診断の日までは。

医師「次の方、どうぞ。」

石場「はい。」

医師「ん！？」

医師は念入りに俺の体を診る。そして棚から紹介状を取り出すと書き始めた。

医師「ここでは厳密には検査できないのでこちらに行ってください。」

石場「わかりました。」

第二章 告げられた病名

翌日、仕事を休んで大学病院へと足を運んだ。そしてMRIやCTスキャン、血液検査や尿検査などありとあらゆる方法で検査された。そして診察室に通される。

医師「いいですか、落ち着いて聞いてください。」

石場「はい。何か私の体に問題があるのですか？」

医師「何か問題というより大問題です。」

石場「え！？」

医師「いいですか、貴方は年下女性尿飲用必須病にかかっています。」

石場「は？はい！？ど、どういうことですか？」

医師「あなたは24時間に1回、あなたより年下の女性の尿を飲まないでと死んでしまいます。」

石場「どうしてそんな病気に？」

医師「あなた、おしっこ系の AV ばかり見てますよね？」

石場「え！？そんなことはありませんよ。」

医師「そこは正直に答えた方がいいですよ。」

石場「え、ええ。見てます。関係あるんですか？」

医師「やっぱりそうでしたか。その影響により、身体がおしっこを過剰に欲してしまうようになってしまいました。それにあなたは過去に何度もおしっこを飲んでますね？」

石場「はい。聖水クラブで月に2回ほど。」

医師「やっぱり。それも関係しているかと。」

石場「つまり、私は女性のおしっこを24時間以内に飲まないで死ぬという事ですか？」

医師「はい。私共にはもう何もできません。薬や治療法がなく唯一生き延びる方法がそれなので。」

石場「分かりました。」

そして病院を後にする。

第三章 闘病の始まり

石場「ど、どうする……。でも聖水クラブに毎日通っていたんじゃ金銭的に余裕がない。そうだ。」

そして俺はとある人物に連絡をした。

鈴木「どうしたの、拓郎にいちゃん。そんな深刻そうな顔して。」

彼女の名前は鈴木美由紀、幼馴染の2歳年下の可愛らしい女性だ。

石場「実は僕、とある難病にかかってしまって、もしかしたら急に死んじゃうかもしれないんだ。」

鈴木「うそでしょ！？私に何かできる事ない？なんでもするから。」

石場「実は……。(言いにくい…どうやって言えば飲ませてくれる…彼女のおしっこを飲まなければ死ぬかも知れないんだぞ。)」

鈴木「拓郎にいちゃんのためなら何だってする。幼稚園のときに約束したでしょ。困った時は絶対に私が助けるって。」

石場「あの、美由紀ちゃん、おしっこが必要なんだ。」

鈴木「どういう事？」

石場「この難病から生き延びるにはアンモニアと尿素を経口摂取する必要があるんだ。でも…自分のおしっこにはほとんど含まれてないからダメなんだ。」

鈴木「つ…つまり健康な人のおしっこを飲まないで死んじゃうって事！？何それ！？そんな病気本当にあるの？」

石場「あるから君に頼んでるんだろ！（もしかして怒ってる！？）」

ギュッ(石場を抱きしめる鈴木)

石場「え！？」

お試し版はここまで。